

SECIモデルを応用した生成AIとの対話ログの集合知化の提案

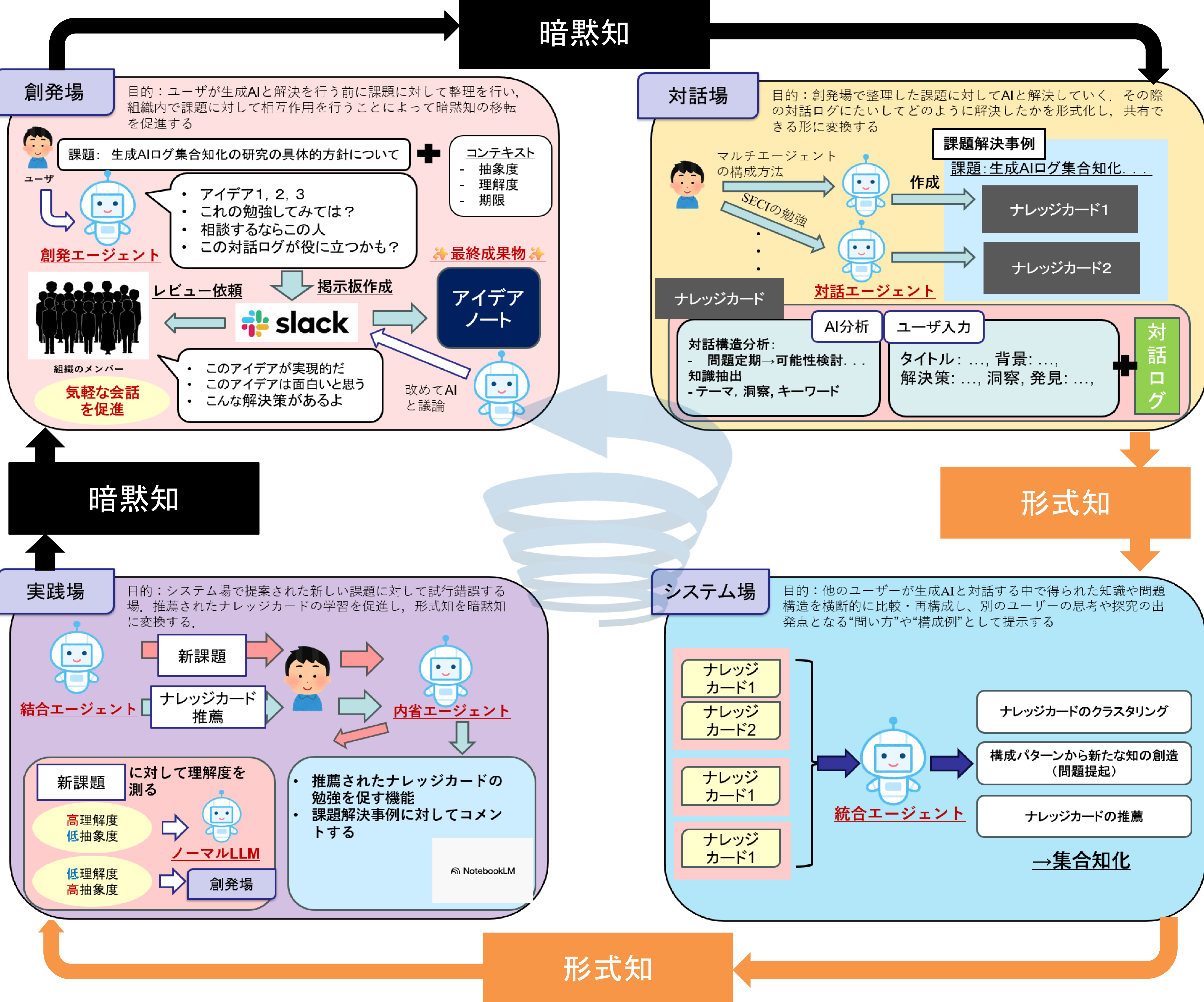
日野翔天, 中田匠哉, 中村匡秀(神戸大学)

第32回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ 2025/11/7

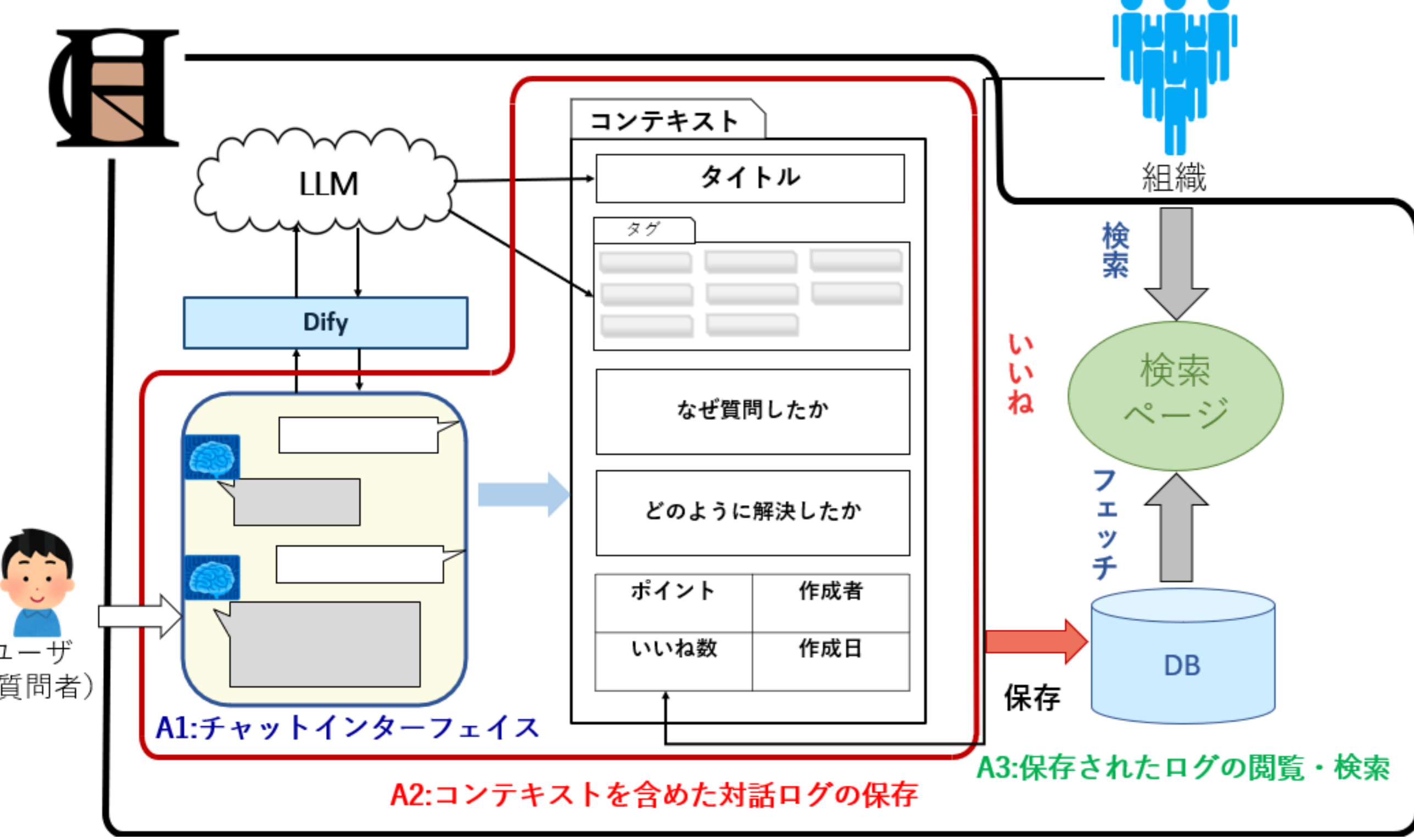
Abstract 野中らによるSECIモデルと「場(Ba)」理論を基に、生成AIとの対話に内在する知識を組織的に引き出し、共有・内面化するマルチエージェントアーキテクチャを提案する

目的 課題解決能力は個々の生成AIを扱うかに依存してきており、このAIから課題解決能力を引き出す力というのは他者に伝えづらい**暗黙知**と化している。この暗黙知を組織内で形式化し、共有する場を設けることによって集合知を醸成することを目的としている

アプローチ 野中らによるSECIモデルと「場(Ba)」理論に基づき、生成AI対話ログの知識変換を支援する4つのエージェントから成る**マルチエージェントアーキテクチャ**を提案する



先行研究 先行研究①: ChatHubAI [1]



コンテキスト付与による他者の対話ログ理解度向上を確認

集合知として他の対話ログとの相互作用について課題だった

先行研究②: From Unstructured Communication to Intelligent RAG [2]

カテゴリ発見エージェント, チケット分類エージェント, 知識合成エージェントによるマルチエージェントフレームワークにより、サプライチェーン業務におけるメールやチャットログの**非構造コミュニケーション**のRAG構成において品質向上が可能となった。

[1] S.Hino, et al., Information, vol.124, no.444, LOIS2024-89, 2025. [2] Y. Zhang, et al., 2025.8, https://arxiv.org/abs/2506.17484